

「加奈陀天理教会」

1920年代末、時安幸八がステーブストンに集談所を独自に開設し、また柴田エイが教会本部の公認を受けて1929年にバンクーバー教会を設立した。しかしBC州の天理教を代表する現地の組織としては、1993年6月に設立された「加奈陀天理教会」が最初と言える。柴田エイは布教師として渡航して以来積極的に布教活動を行っていたが、移民法に抵触し再入国ができないという事態がおこった。そこで、バンクーバーやステーブストンの布教師や信者たちは日系移民社会の指導者の一人中山昶二郎を相談役として会合を持った。彼らはBC州政府公認の団体を設立してその名の下でエイを呼び寄せることを決め、その結果として「加奈陀天理教会」が設立された。最終的にエイの再入国は叶わなかったが、この教会設立はカナダの天理教伝道の上で大きな意義を持つこととなった。

加奈陀天理教会は州政府から認可された慈善団体であったが、教会本部の公認を受けておらず、特定の布教責任者をもたない信徒集合団体であったという点が特徴としてあげられる。1933年3月から1935年10月までの3年間に同教会で定期的に行われた会合の議事録を記したノートが、天理大学附属天理参考館に所蔵されている。この議事録をみると、会議によって教会の代表や役員を選出・決定し、会員から会費を募って教会を運営するという当時の活動や信者の様子をうかがうことができる。1934年7月13日づけで作成された名簿によると同教会に所属する会員総数は105名となっている。この名簿には主だった教信者のほとんどが含まれていると考えられ、当時のカナダにおける天理教の教勢を示しているといつて差し支えないだろう。布教師は時安幸八、神出トマ、白木一雄、安田マン、北川菊松の5名、授訓者は柴田初男など6名であった。また教会の会長は田中三郎、副会長西沢定次郎、議長は白神益一となっており、布教活動に従事する布教師たちと教会の会議や運営の中心を担っていた人々はそれぞれ異なっていたことがわかる。

1930年代には日系移民社会に様々な団体が設立され、BC州に在住する日系人たちの生活をサポートしていた。宗教団体としては日系キリスト教会と仏教会の諸組織や各団体が、カナダ社会の過酷な環境の中で日系人たちが生き抜いていくために、信仰面のみならず、政治的、経済的、社会的、文化的なあらゆる側面で大きな役割を果たした。1933年に天理教の教信者によって設立されたこの加奈陀天理教会も、そのような宗教団体としての機能を目指したと考えられる。同教会では、他教団と同様に、本部へ宗教的指導者の派遣も依頼しており、当時の日系移民社会における団体形成と運営のあり方や宗教教団の組織化の一端がうかがえる。

中山正善 2代真柱の巡教

時を同じくして、1933年の7月に中山正善 2代真柱がバンクーバーを訪問している。これは8月末にシカゴで開催された世界宗教者大会へ招待されたのを契機に、ハワイ、アメリカ本土、そしてカナダで布教活動を行っている教信者を訪問するとともに、北米地域の宗教事情や社会事情を視察することを目的として、初めて北米地域に巡教したものであった。2代真柱はまずハワイに立ち寄った後、7月4日にバンクーバーに到着し、

6日にシアトルへ向けて出発するまでの3日間滞在した。その様子を、同行した高橋道男（『御渡米日記（4）』『みちのとも』1933年10月20日）は以下のように記している。

7月4日 8時半州庁所在地ヴィクトリアに着。岡崎ヨネ（会長不在につき手伝）（会長とはバンクーバー教会の柴田エイのこと、筆者註）、柴田初男氏（会長帰朝中につき代理）等の出迎へあり……午後3時半ヴァンクーヴァ着。百名ほどの信徒に迎へられて直ぐホテルへ。桑港教会長神澤氏、シヤトル教会の湊氏らも出迎へあり。5時半教会御参拝（バンクーバ教会）信徒総代白神氏宅で和食を戴く。8時ホテルにて当地の邦字新聞加奈陀新聞社、大北日報社、日刊民衆社の記者に面会。御分家様と上田君は同刻日本人クラブにて公開講演。

7月5日 管長様は小生と大竹氏とを連れ日本領事館に挨拶後、国立英領コロンビア大学、ウエスレイヤン教会に行かる。……スタンレー公園、ステブストンに行かる。ステブストンには高安の集談所ある由、小生所用のためにお共申さず、6時より有志及び信徒の歓迎会。

またこの来訪の様子は、現地の邦字新聞『大陸日報』や『加奈陀新聞』でも取り上げられており、当時の日系社会においても注目されていたと考えられる。

「中山管長の歓迎会 昨夜盛大 一行は今朝南下」

天理教管長中山正善氏一行の信徒及び有志の歓迎会は昨夜7時より千鳥に於て開催され多数男女の信徒及び有志側では松山日会長（日本人会の会長、筆者註）以下多数出席。非常な盛会であったが、白木氏司会し中山管長を紹介すれば28才の若き管長は立って「此度シカゴの世界宗教会議列席のため当地へお立寄りし信徒並に一般在留民諸氏より熱誠なる歓迎を受け感謝に堪えない。天理教の教理を一言に尽せば『誠を以て神に仕へる』のである。在留民諸氏も此お心掛で日白融和、一致協力して御発展なさん事を祈る」と挨拶した。それより、当地教会を代表して白木氏、竹内藤吉、中山訊二郎其他二三氏の歓迎辞があり、海外伝道部中山為信氏の謝辞引きつづいて隠し芸など出て天理教の「面白く暮せ」と言ふ教への通りに和氣藹々として9時散会した。（『大陸日報』1933年7月6日、4頁）

BC州の日系人に関する1934年頃の調査によると、仏教やキリスト教とならんで宗教団体として天理教の名前があがっている。バンクーバー市内の日系宗教団体として天理教の団体数は2、バンクーバー周辺では天理教の団体数1、会員数33と記されている。（Young, Charles H. and Helen R.Y. Reid, p.109 & 113. 調査記録には「Tenrekyo」と表記されているが、当時の宗教事情からすると天理教のことを指していると考えられる。）この記述から、1930年代半ばには加奈陀天理教会設立や2代真柱来訪により、天理教の存在が日系移民社会で認知されるようになっていたと考えられる。

【参考文献・史料】

Young, Charles H. and Helen R.Y. Reid. *The Japanese Canadians*. Toronto: University of Toronto Press, 1938.

「加奈陀天理教々信徒集會 議事録」天理大学附属天理参考館所蔵。